



百万人のキャンドルナイト

エプロン通信員 神賀 郷子

みなさん「百万人のキャンドルナイト」と呼ばれる運動を御存知ですか？

夏至の夜の二時間を、日本で一齐に電気を消してロウソクの明かりだけで過ごす。それが「百万人のキャンドルナイト」です。

先日、夏至に先立ってキャンドルナイトをわが家で実行してみました。夕食の準備を済ませたらライトダウン。ロウソク一本の明かりのもとで家族四人食事をしました。ほの暗い中での食事の話題は自然と昔の暮らしの想像に。なったり、普段と同じように子どもの小学校の話になったり。子どもの笑う動きにロウソクが揺らめいて少し驚いたりもしました。いつもより少し不便ではあるけれど、暗闇がむしろ暖かい心地よい時間でした。簡単に体験できる異空間とでも言いましょうか。電気をつけて明るくなったとき、ちよっぴり寂しさも感じました。

あたり前のように使っている電気。私達の便利な暮らしが、実はたくさん環境への負荷があって支えられていることを私達は忘れがちです。キャン

ドルナイトは、CO₂削減という目的と同時に、私達にそのことを気付かせてくれるきっかけになるでしょう。普段の暮らしの中で、ほんの少し電気をお休みしてロウソクで過ごす時間は、自動車を休んでお散歩するのと同じように、楽しさや心穏やかになる魔法が潜んでいる気がします。

今年の「百万人のキャンドルナイト」は、洞爺湖サミット開催に合わせて開催日が延長され、六月二十一日（夏至）から七月七日（サミット初日）の夜の二十時から二十二時です。それぞれが思い思いの夜を同じキャンドルの明かりの下で過ごせる貴重な時間です。緩やかに見知らぬ誰かとつながりあう中で、地球のことに思いを馳せてみませんか？



※ 100万人のキャンドルナイトHP: <http://www.candle-night.org/jp/>
※ 環境省「環のくらし」HP: <http://www.wanokurashi.ne.jp/index.html>

茶

ぐわーゆんたく

50



宜野湾村の学童疎開

戦時中 大本営が絶対防衛圏として設定していたサイパン島で日本軍が事実上壊滅した一九四四(昭和十九)年七月七日 日本帝国政府は南西諸島の老幼婦女子の疎開計画を緊急閣議決定し、すぐさま沖縄県庁へ計十万人の疎開を命じた。沖縄県は学童集団疎開準備二関スル件(同年七月十九日付)を作成し「疎開トハ(中略)戦争完遂ノ為ノ県内防衛態勢ノ確立強化ヲ図ラムガタメノ措置」として各学校に学童疎開を通知しました。すでに県内には第三二軍が駐屯していたことを考えると、県内食糧の確保 人的資源の

確保 非戦闘員の退去であったと指摘できます。いずれも沖縄が戦場になることを想定したものでした。

対馬丸が撃沈された一週間後の同年八月二十八日 宜野湾村からは普天間・宜野湾・嘉数国民学校の学童九一人と引率教員十人が伏見丸で出発し、宮崎県臼杵郡東郷村(現日向市東郷町)の坪谷・福瀬の両国民学校に疎開しました。軍事機密上 対馬丸の撃沈はおろか、詳しい疎開先さえ一行には知らされませんでした。疎開先では親元を離れて飢えと寒さにさいなまれましたが、一九四六(昭和二十一年)年十月全員無傷で帰還しました。



1946(昭和21)年 嘉数国民学校の児童たち(宮崎県旧東郷村にて)

パネル展示会
「歴史の証言」戦のなかの子ども達へ

期間…六月八日(日)～七月六日(日)
場所…市立博物館企画展示室
※詳細は、二十一ページをご覧ください。

お問い合わせ
教育委員会文化課 ☎八九三―四四三〇